

No MUSTANG, No Life!

MUSTANG



協力：マスタング・オーナーズ・クラブ・ジャパン

撮影：浅井岳男

★★★★★★ マスタングスプーキー



ここところ、どうもサブロー号の機嫌が悪い。先々月はスターターの交換を行ない、先月はキーシリンダーの交換を行った。これでようやくエンジンが発動…と思っていたら、しばらくすると、またエンジンが動かなくなりました…。今月は再びシンコーエンジニアリングにお邪魔して、リレーの交換を行なうことになったのであります。

どうも機嫌が悪いサブロー号…

リレーを一新してゴキゲンに!の巻



今回交換するパーツは「リレー」だ。リレーとは、コイル（電磁石）と永久磁石でできているもので、そのコイルに電気を流すと磁気が発生して磁石と引き合う構造になっていて、そこに回路の接点を留意しておけば接触したときに電気が流れという仕組み。コイルに流す電圧とリレーで制御する電圧はある程度自由ということがメリット。はっきり言って理系の人でないと理解しにくいことではあるが、ものすごく簡単に言うと、リレーを介することで電気の流れる効率が良くなるということだ。今までは今まではアメリカ製のリレー（写真左）を使っていたのだが、今まででもちょいちょいコイツが悪さをしていたようなので、今回は日本製（写真右）のトラックにも使っているものを装着する。コンパクトなのにタフなジャパंकオリティなものだ。

最近どうもワガママなサブロー号の反抗期!?

先月は、エンジンが暖まった状態で再度エンジン始動を試みると、かからなくなる…という症状の解消のために、電装系のプロであるシンコーエンジニアリングにて「キーシリンダー」の交換を行なった。その後しばらくは機嫌良くエンジンが始動していたサブロー号だが、また同じ症状が出るようになってしまったのだ。これはサブロー号の反抗期なのか、それとも誰かの呪いなのか…。

症状を解消するべく、今回もシンコーエンジニアリングに相談。もしかすると、リレーが悪さをしているかもしれないということだ。今回はリレーを日本製の新品に交換することにした。また周辺の配線類も今までのものよりも太いものに交換して電気の流れを良くすることにしたのだ。



前回、キーシリンダーの交換を行なうことで、エンジンがかからないという症状は改善したはずだった。しかし、その半月ほど経つと同じ症状が出るようになってしまったのだ。前回の診断にあったように、どうやら電気の流れがまだ良くないようなので、今回はシンコーエンジニアリングと相談の上、リレーを交換することにしたのだ。電気は非常にデリケートな問題なので、しっかりとメカニックとのディスカッションが重要になってくるのだ。



式号機：ブシロー号

1976 FORD MUSTANG II

た式号機の「ブシロー号」は1976年型のマスタングII。ようやく自走できるようになったが、不人気車の宿命か、パーツが入手困難につきレストア作業はなかなか進んでいない…。しばらく放置状態。



初号機：サブロー号

1968 FORD MUSTANG

イジリー木村の初号機「サブロー号」。1968年型のマスタングGTだがシェルビーGT500ノックになっているのが特徴。390ビッグブロックエンジンを搭載したれっきとしたマッスルカーなのだ。



イジリー木村

アメ車マガジン編集部一ノラタク。異常なまでに物欲が強く、モノへのこだわりも人一倍。そんなこともあって、2台のマスタングを所有。それらを広いガレージに入れたくて、昨年6月から田舎暮らしを始めた「イジリー木村」だ。

マスタングスプーキー



1 サブロー号の場合は助手席側のバッテリーの横にリリーススイッチが装着されている。多くの場合はこの周辺に配置するだろうが、この位置だと水に濡れる場合があるので対策は必要か。



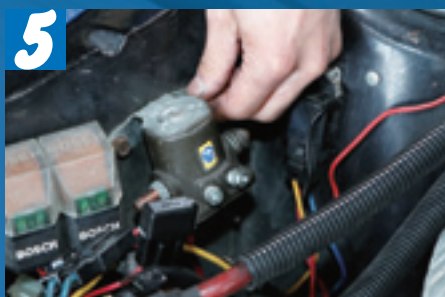
2 電気関係の作業を行なう場合は、必ずバッテリーのマイナス端子から外す。サブロー号の場合はバッテリーが放電することが多々あるためキルスイッチを室内に付けているのだ。



3 せっかくバッテリー端子を外したので、今回は劣化した端子類を新しくしてもらったことにした。端子も消耗パーツなので、府古くなると電導率が悪くなるので早めに交換するべし。



4 今回はセレブな金メッキ仕様の端子に交換。これはドレスアップではなく、金メッキのものの方が電導率が良いのだそう。ただし普通のものより、お値段が高くなるぞ。



5 そして本題の古いリレーを取り外す。アメリカ製のものが悪いわけではないが、日本製よりも製品のバラつきがありアタリハズレがあるのだ。こちらは古くなったので換え時だったのだ。



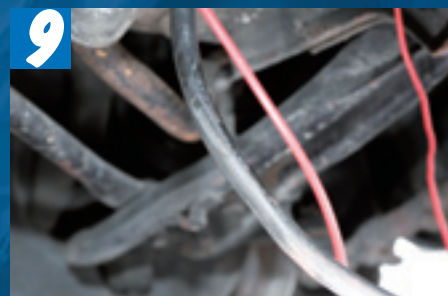
6 これまでは配線ケーブルが「そば」のように細かったので、今回は「うどん」のように太いものを使うことにした。配線が太い方が当然ながら電気の流れが良いのだ。



7 新しいリレーを元々付いていた場所に装着。新しいものは日本製でトラックにも使用されるタイプで信頼性の高いものとなる。サイズは小さいのにタフで、さすが日本製ですわ。



8 エンジンの下部からスターターを取り外し、配線を太いものに繋ぎなおす。スターターがパワフルなものだけに、配線がそのパワフルさに追いつけていなかった可能性もあるのだ。



9 スターターを繋いでいるケーブルがヘダースに接触して表面が少し溶けていた。火災になる可能性があるので位置を変更することにした。これも電圧の抵抗になっていた可能性もある。



10 ビッグブロックエンジンは、デカいだけに発熱量もハンパない。熱が電気の抵抗になるので、保護する意味も込めて配線はコルゲートチューブで覆うことにした。



11 新しいリレー、新しいバッテリー端子、そしてキレイに配置された配線類。ウデの良いプロショップは仕事もキレイと言われるが、その良い例がコレ。美しくレイアウトされている。



12 で、試乗。一発始動して走り出す快調！ エンジンが暖まった状態で数度とエンジン始動を行なったが、今回は問題なし。ようやくサブロー号の反抗期が終わったようだ(笑)

国土交通省が認めた電機のエキスパート

今回はサブロー号のチェック＆メンテナンスをお願いしたのは埼玉県加須市にお店を構える「シンコーエンジニアリング」。カーエアコン、バッテリーなど、クルマの電機に関する「電装屋」、すなわち電機のプロショップだ。間もなく創業50周年となる老舗ショップであり、その豊富なノウハウと実績により、頼りにしているクルマ屋さんも多数。アメ車をはじめ日本車、各国の外車、そしてビンテージカーのメンテナンスも行なう。さらに大型トラックや建設機械・農業機械のメンテナンスも行なうことから分かるように、そのスキルはまさにプロ中のプロなのだ。サスペンションテスターやブレーキテスターなども完備！ 電機に問題を抱えているアメ車オーナーさんは是非相談してみよう。



シンコーエンジニアリング

location▶埼玉県加須市下高柳1632-3

phone▶0480-76-0234

URL▶<http://nttbt.jp.ne.jp/0480760234/index.html>

営業時間▶8:30~18:00 定休日▶日曜・祝日

